



人間総合科学大学

ディプロマポリシー対応ルーブリックの開発 による学修成果可視化の試み

人間総合科学大学 IR室

人間総合科学 心身健康科学研究所(HASREC)

小岩 信義

HUMAN ARTS AND SCIENCES RESEARCH CENTER

導入の背景と経緯

開発の背景

右手にライセンス、左手に生きる力

人間総合科学大学では、全学科のカリキュラムで「こころ」と「からだ」の関連性から

人間を総合的・統合的に理解するための学びを展開。

日々変化し続ける世の中を生き抜くために必要な、流されない強さとどんな状況でもしなやかに対応できる人間力を養います。

また、食・栄養・医療の現場で専門職者として活躍するためのパスポートとなる資格取得を、全学をあげてサポートします。

充実の4年間を経て手にするのは、「右手にライセンス、左手に生きる力」です。

- DPの意識化と共有
- 学修成果の可視化
- 授業学修とDPの連動
- DPサプリメントの作成
- 外部評価対応

Knowledge for well-being
よりよく生きるための知恵の創出

アドミッション・ポリシー (入学受け入れの方針)

人間総合科学大学は、教育の目的に理解と共感を持ち、次のような資質を有した人材を受け入れる。

1. 専門的知識・技術の修得に積極的に取り組むことができる人
2. 健康や医療に関する職業等を通じて主体的に社会的課題の解決に努力できる人
3. 自身の将来に対する目標を持ち、勉学と協働しながら、多様な学修経験を通じて成長できる人
4. 人間に関する様々な事象に関心を持ち、総合的、科学的に理解を深めることに努力できる人

人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を構成する。

本学における位置づけ



人間総合科学大学 学習達成度自己評価
DP対応ルーブリック客観的指標

メタ認知

GPAによる学習状況の振り返り
+
DP対応ルーブリックによる自己評価



学習目標の再設定、
DP達成度について教員と面談



学生 - 教員によるDP達成度の検討(通学)

導入

年間の学修内容について、何を目的に学ぶのかを説明する。**DP対応ループリック**を基に、ゴールとする学修成果を確認するとともに、科目との関連性を学生に理解させ、履修登録の意識付けを行う。

履修科目登録
&
ガイダンス

4月

実施1

学修経過の振り返りとして、前期学修までの各基準の達成度を確認する。**DP対応ループリック**を活用し、年度中間地点での学修成果の達成度を自己評価する。

あわせて、後期の学修内容に触れ、何を目的に何を履修するのか？を学生に理解させる機会とする。

定期試験

7月

履修科目登録
&
ガイダンス

9月

実施2

年度の学修成果を振り返る機会として、**DP対応ループリック**を活用する。

1年間の学修成果の達成度を学生は自己評価するとともに、確定した成績評価を基に、各基準の達成度を数量的に確認する。

必要に応じて、面談時にメタ認知との乖離を補正する

定期試験

2月

成績通知
&
面談等

3-4月

☑ 各年度の開始時に実施される**ガイダンス**内にて、当学年の学修成果目標を学生に認識させる機会を設ける。学生の**履修科目登録前**に、当該学年で履修する個々の科目と、DP、DP対応ループリック内の基準との関連性を確認させる機会を設け、学修成果の目標に応じて、能動的に履修科目を選択するよう指導する。

☑ **半期ごとに2回**、DP対応ループリックを活用して、学生に自己評価の機会を与える。大学からは、基準別の累積GPAの数値を参考情報として学生に与える。年度開始時に設定した目標に対して、自己評価データと参照データを比べることを通して、学生-教員間でDPの達成度について**面談等**を通して検討する。

構造と構成

DP対応ルーブリックの構造

人間総合科学大学 学修達成度自己評価 DP対応ルーブリック【人間科学部 心身健康科学科】

入学時 → 卒業時

主に関連するDP		項目	内容	基準			
大学全体				1	2	3	4
*	*	人間および心身相関の科学的・総合的理解	人間と社会の諸側面について幅広い知識を持ち、健康が心理的・社会的・文化的側面と密接に関わることを理解している。	「心身相関」を基本にし、人間に関する科学を学際的に学び、総合的に人間を理解することの重要性を理解している。自身の体験をもとに、常生活における心身相関の例を挙げるができる。	一人一人がストレス社会を力強く生きていくことに関連する、「心身相関」の仕組み、および、他者や環境との関係性を理解している。	生命進化及び人類進化についての知識を学び、生物としてのヒトの心身の健康を進化的観点から考えることができる。	人間の歴史を「文化・社会」の視点を通して学び、健康と社会的環境との関連を理解している。
*		knowledge for well-being の理解と実践	に、洞察力、共感性、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性が必要であることを理解し、実践している。	発達・ライフサイクルに伴う心身の特徴を学び、各時期の特徴を活かして生涯学び、「よりよく生きる」知恵について考える必要性を理解している。	人間と社会の共生性について、その発達も併せて科学的に理解できることを知り「よりよく生きる」こととの関係を理解している。	進化的視点を含む新しい思考方を学び、現代社会の人間について総合的に洞察を実践している。	
*	*	自立と	社会における「自立」と他者との「共生」、異文化理解能力、他者へのコミュニケーション能力などを理解し、	「心身相関」を基本にし人間を総合的に理解する学びをもとに、健康問題について自分の頭で考えることが、社会における「自立」に必要なことを理解している。		人類進化の過程における社会の関りについての学びを社会における共生に必要な責任感について自ら考えることとしている。	
*	*	プロフェッショナリズムの理解	専門職の責務を自覚し、強い責任感と倫理観を持って自身が持つ専門的知識と技術をもって、社会に貢献し、人々の幸福と健康に貢献する決意をもって	プロフェッショナルリズムの基盤となる知識を修得している。	プロフェッショナルリズムを持った所属学科・専攻分野の専門職の役割を明確に表現することができる。	所属学科・専攻分野のプロフェッショナルに求められる知識の重要性を理解している。加えて習得に努めている。	

項目

基準

すべて修得できている --- 4

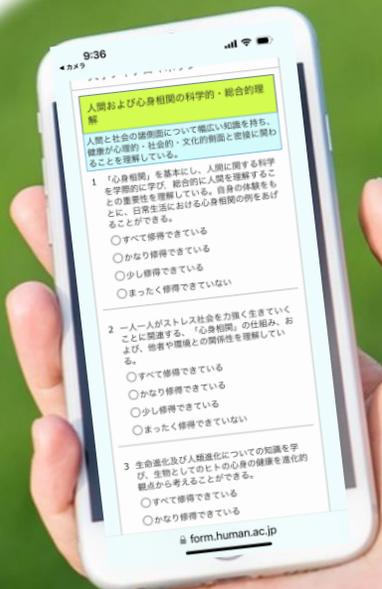
かなり修得できている --- 3

少し修得できている --- 2

全く修得できていない --- 1

【回答例】

GPA	項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Total
0.16		11	10	9	10	10	8	11	10	9	10	98
3.34		13	14	16	4	4	4	13	12	12	14	106



9:35
◀ カメラ

人間総合科学大学 学修達成度自己評価 ループリッ
ク
【人間科学部 心身健康科学科】

ログアウト

▼ 学籍情報

学籍情報

学籍番号と氏名を入力してください。(※必須)

学籍番号	kyoin
氏名	教員閲覧用

▶ 大学ディプロマポリシー

▶ 学部ディプロマポリシー

▶ 学科ディプロマポリシー

送信

ああ form.human.ac.jp

9:36
◀ カメラ

▶ 学籍情報

▶ 大学ディプロマポリシー

▶ 学部ディプロマポリシー

▼ 学科ディプロマポリシー

人間の多面的理解を支える専門知識

人間と社会の多面的な側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っている。

1 「こころ」「からだ」「環境・社会」の視点から多面的に人間を学ぶことの重要性を理解できている。

すべて修得できている

かなり修得できている

少し修得できている

まったく修得できていない

2 「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域の基礎的専門知識を修得している。

すべて修得できている

かなり修得できている

少し修得できている

まったく修得できていない

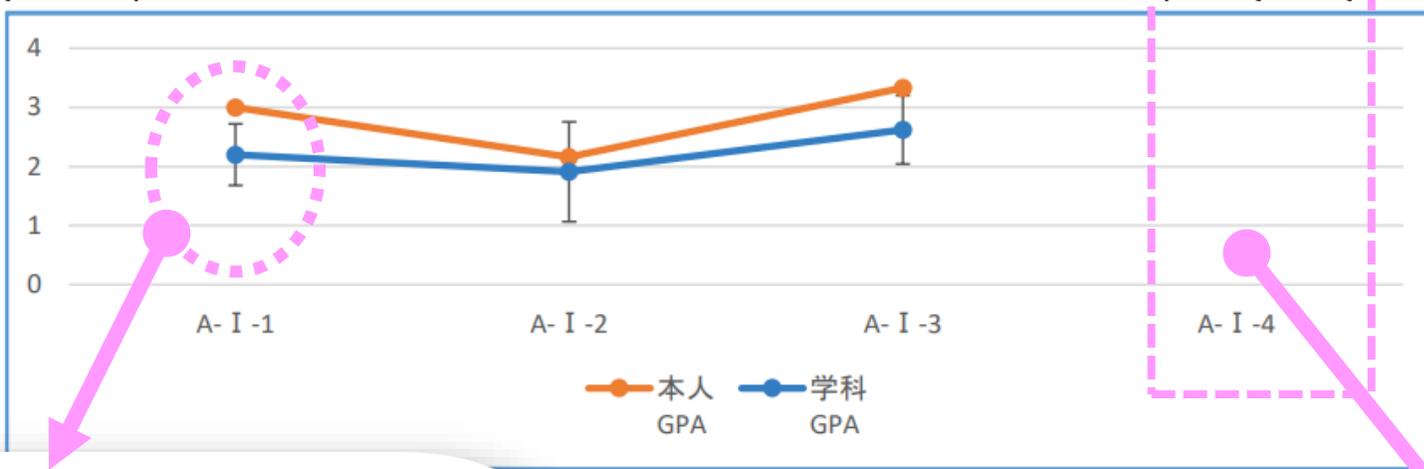
3 「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれ

form.human.ac.jp

A. 大学（機関レベル）

A-I. 人間および心身相関の科学的・総合的理解

	基準	本人 GPA	学科 GPA	自己評価
A-I-1	人間を、身体的・心理的・社会的側面から多面的に捉えることの重要性を理解できる	3.00	2.20	2
A-I-2	人間を、身体的・心理的・社会的側面から多面的に理解できる	2.16	1.91	2
A-I-3	人間を、身体的・心理的・社会的・文化的側面から多面的に理解できる	3.33	2.62	2
A-I-4	人間を、身体的・心理的・社会的・文化的側面から多面的および総合的に理解できる			2

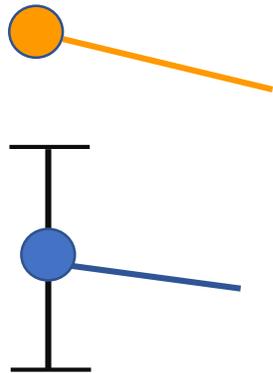


項目

基準

自分のGPA

学年のGPA
平均値±SD



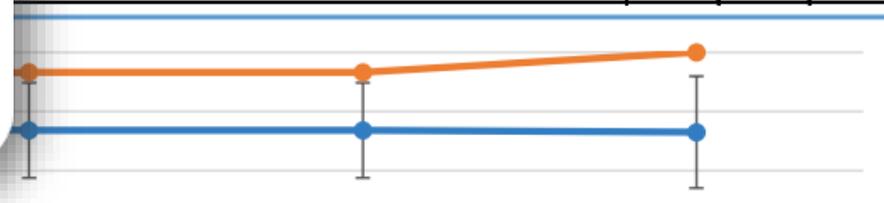
直近の
自己評価結果

- すべて修得できている --- 4
- かなり修得できている --- 3
- 少し修得できている --- 2
- 全く修得できていない --- 1

空欄は
未履修

Well-being の理解と実践

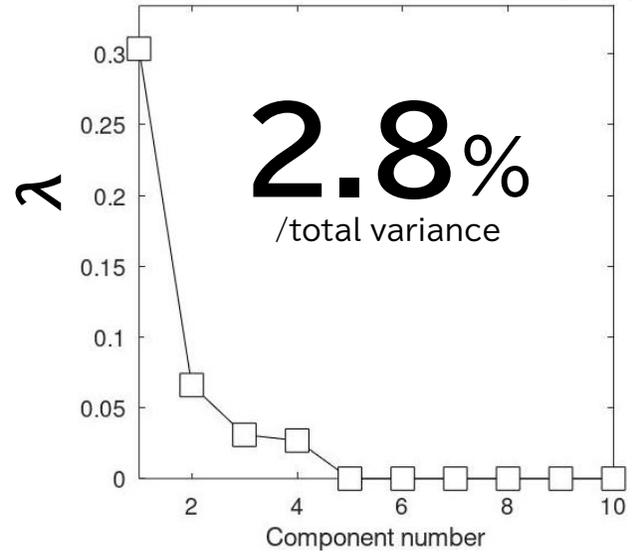
	基準	本人 GPA	学科 GPA	自己評価
	微を活かして生涯学び、「よりよく生きる」知恵について考える必要性を理解している	3.50	2.77	3
	科学的に理解できることを知り、「よりよく生きる」こととの関連を理解している	3.66	2.68	2
	現代社会に生きる人間について総合的に洞察する努力を実践している	3.66	2.68	2
	本知識を学び、未来を切り開く創造力を高めるために活用する努力を実践している	4.00	2.65	2



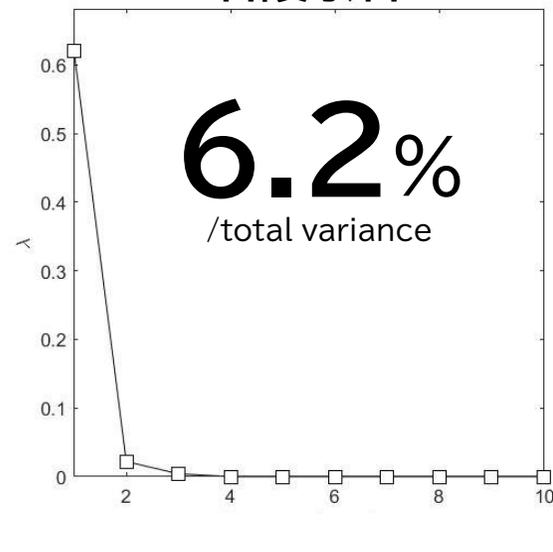
自己評価の結果

学年変動要因の説明力と得点の変化

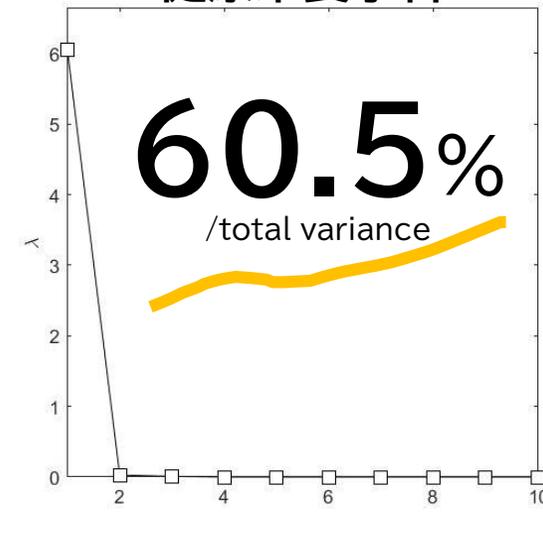
ヘルスフードサイエンス学科



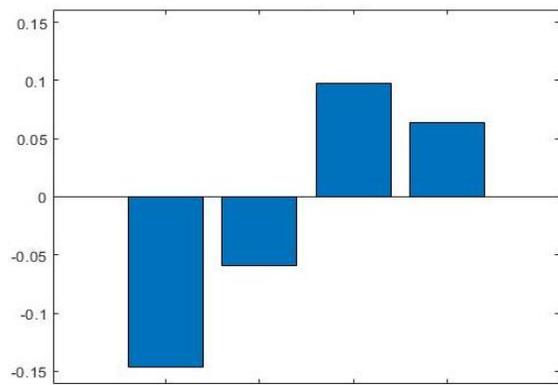
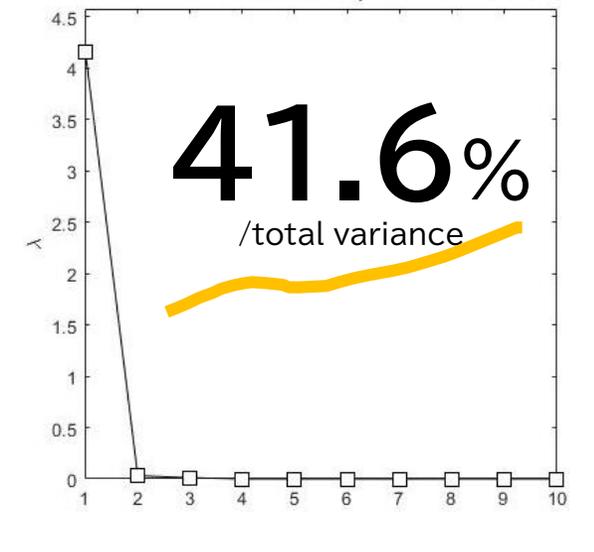
看護学科



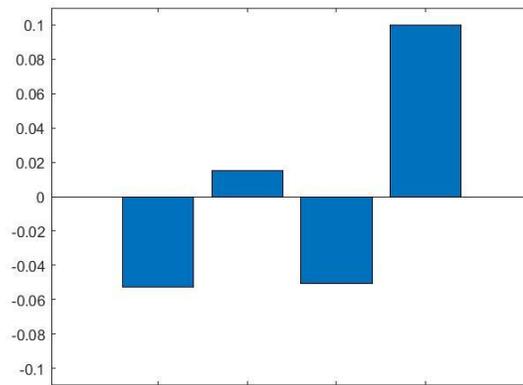
健康栄養学科



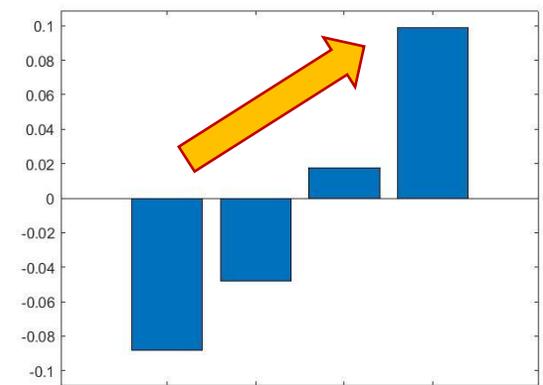
リハビリテーション学科



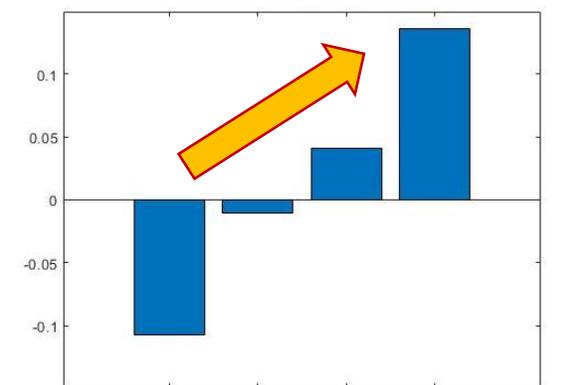
1年生 2年生 3年生 4年生



1年生 2年生 3年生 4年生



1年生 2年生 3年生 4年生



1年生 2年生 3年生 4年生

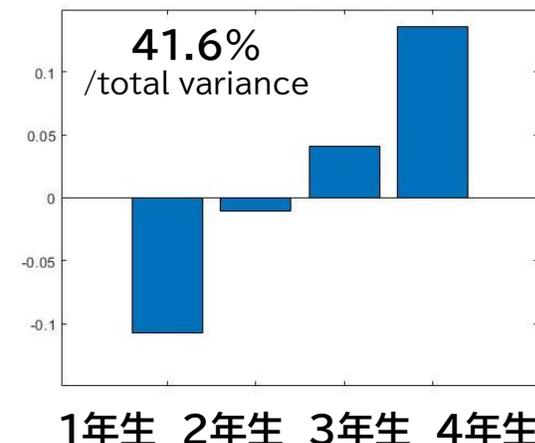
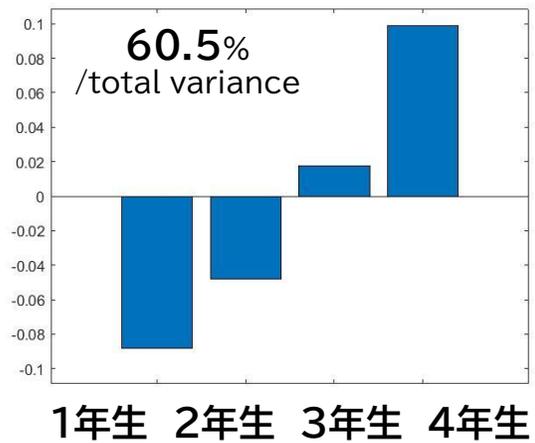
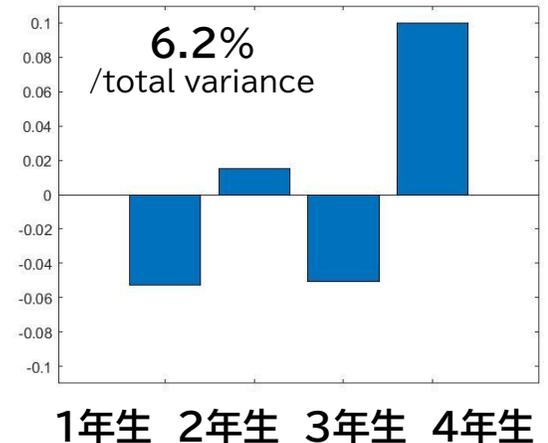
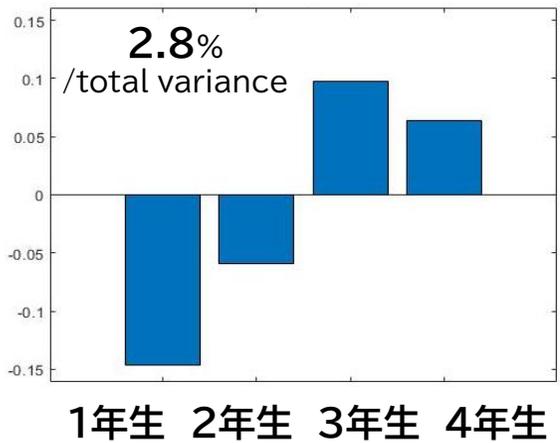
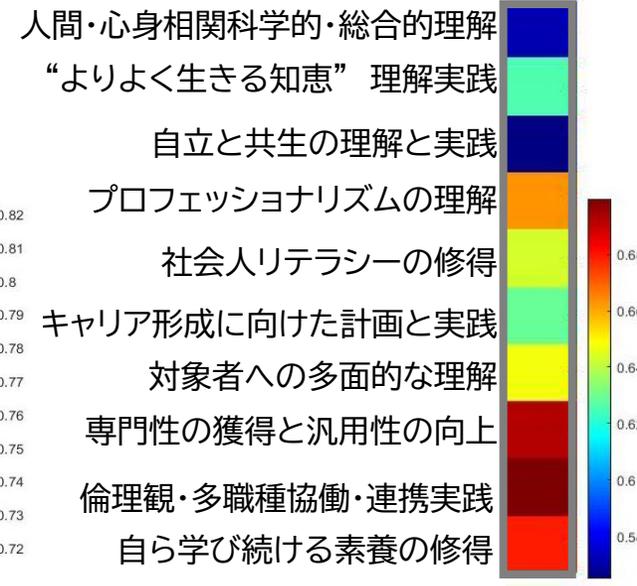
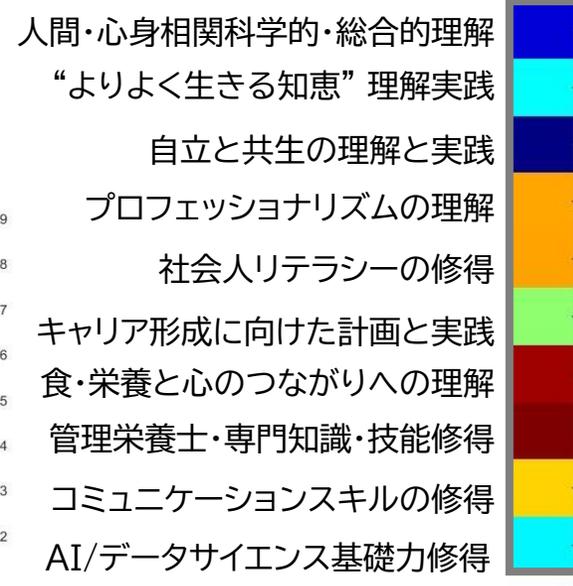
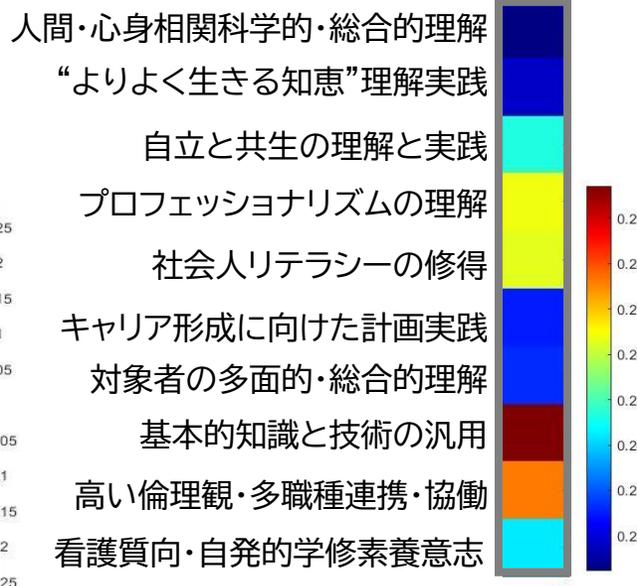
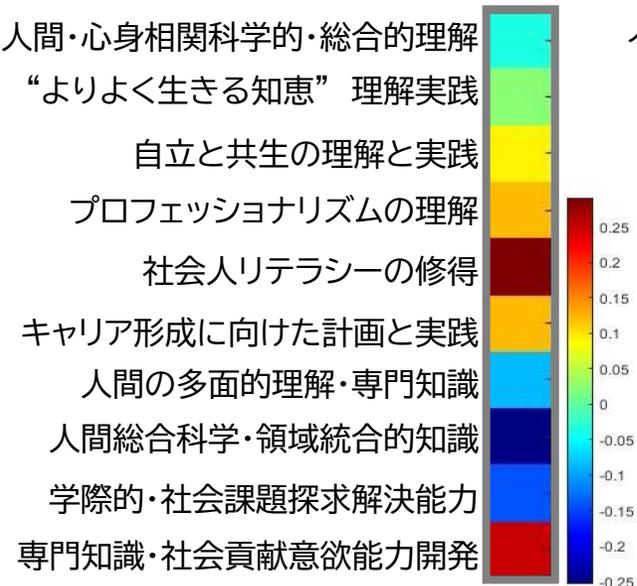
学年変動要因に対する項目の影響度

ヘルスフードサイエンス学科

看護学科

健康栄養学科

リハビリテーション学科



まとめ

- 大学から客観指標情報を提供した
- 学生による自己評価は、学年要因によって変動が大きい学科と小さい学科が存在した